

「探究学習」
開発・推進
追跡レポート

語り合い、考え抜き、創り上げる、

龍谷大学付属平安中学校・高校の新たな「学び」

創立140周年を迎えた今年度、校内にカリキュラム・マネジメント委員会を立ち上げ、教育活動のさらなる改善に取り組み始めた龍谷大学付属平安中学校・高校。探究学習についても、これまでに磨き上げてきたカリキュラムを土台に、2017年度からの新たな展開に向けて、校内で議論を重ねていくことになった。本誌では次号以降、同校の教師たちが、育てたい生徒像をどのように具体的に描き、自校に求められる探究学習を形づくっていくのか、その過程を随時レポートしていく。

探究学習を通じて育てたい生徒像

建学の精神を土台にした探究学習を目指す



龍谷大学付属平安中学校・高校
校長
燧土勝徳
すいど・かつのり

本校では、浄土真宗の精神に基づき、ありのままの自分の姿を真摯に尋ね、相手の痛みが分かる思いやりの心を持った生徒を育てることを目指してきました。それはすなわち、相手の立場に立ち、周囲から何を求められているかを想像した上で、自分が何をすべきかを主体的に考えることのできる若者の育成です。

部活動でも学校行事でも、仲間との関係の中で自分の役割を考えられる人は、社会に出てからも活躍することができます。近年、教育のあり方が変わる中、授業でも、学びの過程の中で仲間を大切にすること、自分の役割を考えることが、より一層求められるようになりまし。アクティブ・ラーニングも、生徒が活発に活動する学びではなく、社会に出た時に、自分で物事を判断し、それを他者と

協働しながら進めていく力を育成する学びを目指すのだと私は考えます。それは、私たちが建学以来大切にしてきた理念と大いに重なるところがあり、これからの社会でも、ますます輝きを放っていくものと信じています。

教師には、今自分が行っている教育活動が、生徒にどのような力を育成することに結びついているのかを、常に確かめることが求められます。探究学習も、教師が生徒を動かすことができるようでは、生徒に主体的に考える力を養うことができます。教師の自己満足に終わる恐れがあります。本校の探究学習は、生徒が育つための自分を見つめ、自分自身を育てていく活動であるべきです。建学の精神はそこにも表れると思います。

それぞれの教師が授業や部活動、学校行事の中でこれまで体現してきた本校の教育理念をベースに、どのような探究学習を創り上げるのか、とても楽しみです。

探究学習の開発・推進に向けて

体系的な組織運営でコンピテンシーの育成を



龍谷大学付属平安中学校・高校
校長補佐
平井正朗
ひらい・まさあき

目の前の事象について、背景知識を整理する論理的思考力と、そこから課題を発見し、解決する力。それらが社会で求められるコンピテンシーであり、そうした能力・資質を養う営みが探究学習だと考えます。

探究学習には、対話を通して深く学び、他者へ発信する2つのアクティブ・ラーニングが不可欠です。その1つは、イベントなどを利用して、課題の設定からまとめ・表現、振り返りまで、何か月もかけて学年全体で取り組むような学習活動であり、もう1つは、授業で学んだことを定着させ、実際に活用できるようにペアワークやグループワークを展開していく各教科における学習活動です。その2つのアクティブ・ラーニングを、カリキュラム・マネジメントを通じて、学校全体でバ

ランスよく行っていくことで、学力を伴った人間力を育成することができます。

「人の役に立ちたい」という気持ちを育むのと同時に、PDCAサイクルを通じてロジカル・シンキング・プロセスを鍛えることが大切です。教師は、生徒の自立を、授業、部活動、学校行事といった様々な教育活動を相互に作用させながら、実現していくことが求められます。同じように探究学習も、教科を横断した多様な知識をつなぎ、組み合わせながら、課題解決に取り組む生徒を育てていきます。だからこそ、本校でこれから取り組む探究学習も、トップダウンとボトムアップが融合した、より体系的な組織で開発・推進するものでありたいと考えます。

教師が日々の教育活動における成果や喜び、疑問や悩みを気軽に語り合える雰囲気をつくりながら、それぞれの指導が有機的に結びつく探究学習を創り上げていければと思います。